石岡市立東成井小学校
学校だより　３０号
令和５年１２月１８日
校長　　石崎　重臣

太郎・次郎

「太郎・次郎」は，校庭にそびえるいちょうの木です

【組織目標】児童が主役　みつけよう　かんがえよう　やってみよう～認める　寄り添う　支える～

今年を振り返ってみましょう！

１２月も半ばを過ぎ、もうすぐ2023年も終わりますね。東成井小では、各種行事や授業をはじめとした日常の様々な活動を通して、子どもたち一人一人が、また学級（学年）で何ができるようになったのか、冬休み明け（年度末３か月）の課題は何なのかを明確にして、冬休みを迎えられるように支援しています。

この節目の時期に一番大切なのは、子どもが「自分もけっこうがんばったな。成長したな。楽しい一年だったな」と思えるようにしてあげることだと、私は考えます。それができて、初めて、「よし、来年もがんばろう」という前向きな気持ちになれると思うのです。ぜひ、ご家庭でも、折に触れて「プラス思考で一年間を振り返る」ようにしてみてはいかがでしょうか。例えば、次のようなことを探してみませんか。

- **お子さんが今年がんばったことは？**
- **お子さんが夢中で取り組んだことは？**
- **お子さんが今年楽しかったこと、うれしかったことは？**
- **お子さんがよい思い出になったことは？**
- **お子さんが新たにできるようになったことは？**
- **お子さんが新たに経験したことは？**
- **お子さんが今年あった出会いは？**
- **お子さんの身体の成長、何センチ伸びた？何グラム増えた？**

私たち教職員や保護者の皆様など「大人の目から見て感じていたこと」、また、「お子さん自身が思っていたこと」を話題にしてみることで、見逃していた新たな一面が見えて、「振り返り」の大切さが、これからの願いに結び付いていくと思います。

お子さんと振り返りの習慣をもつことは、お子さんの情緒的な安定・成長のために重要なことです。ここで大事なのは、「振り返り」と「反省」は同義ではないということです。「反省」の主な目的が、「誤りを正すこと」であるのに対し、「振り返り」とは「事実を確認すること」を意味します。過去を振り返る際にありがちなのが「反省」ですが、うまくいった経験も、うまくいかなかった経験も「振り返ること」、つまり事実を確認することが大切なのです。あえて「プラス思考」で物事を客観視してとらえ、「次はどうしようか」とお子さんの気持ちを聞いてみるとよいでしょう。ここで自分の気持ちや意志を言語化できれば、次なる行動が始まるはずです。目的があれば、人は前に進めるようになります。

いま世界中で話題の人となっている大リーグの大谷翔平選手のご両親は、子育てのモットーとして「頭ごなしに怒らないこと」そして「子どもの考えを否定しないこと」を実践されていたそうです。これまでの子どもたちの頑張りに対して、たくさんの誉め言葉を伝え、子どもたちが笑顔で今年１年を終え、新年を迎えられるような「振り返り」を私たち教職員も心がけていきたいと思います。